

関東・中部地域における ニホンジカ生息密度の推移

2013～2015

調査方法

ニホンジカの生息密度を出猟者の目撃効率SPUEで区分し、5kmメッシュ上に図示した。なお、メッシュの表示がない部分は、情報が得られなかった地域である。

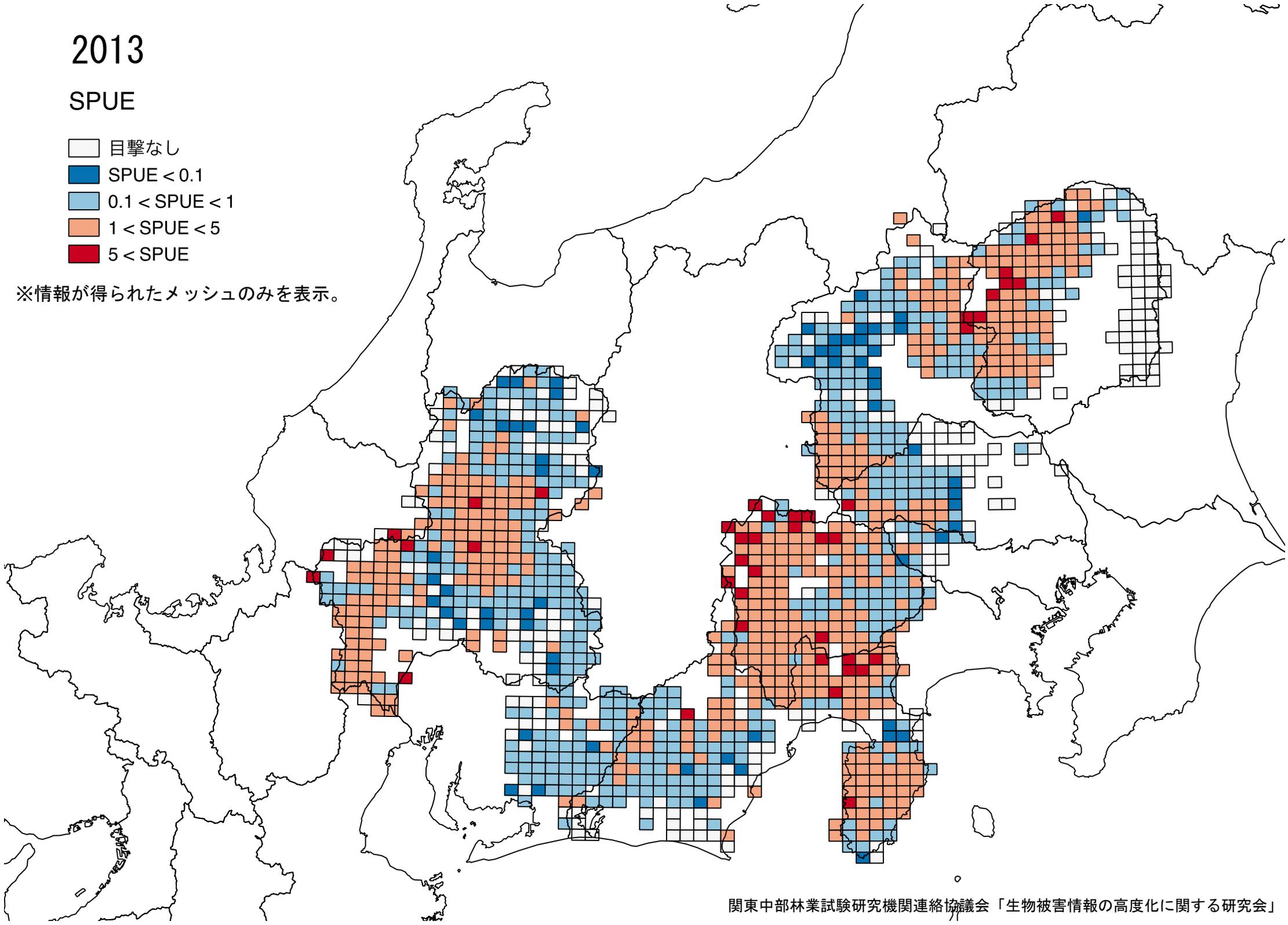
SPUE: 出猟者の延べ人数・日当たりの目撃数(狩猟者1人が1日に何頭のニホンジカを見たか)。

2013

SPUE

- 目撃なし
- SPUE < 0.1
- 0.1 < SPUE < 1
- 1 < SPUE < 5
- 5 < SPUE

※情報が得られたメッシュのみを表示。

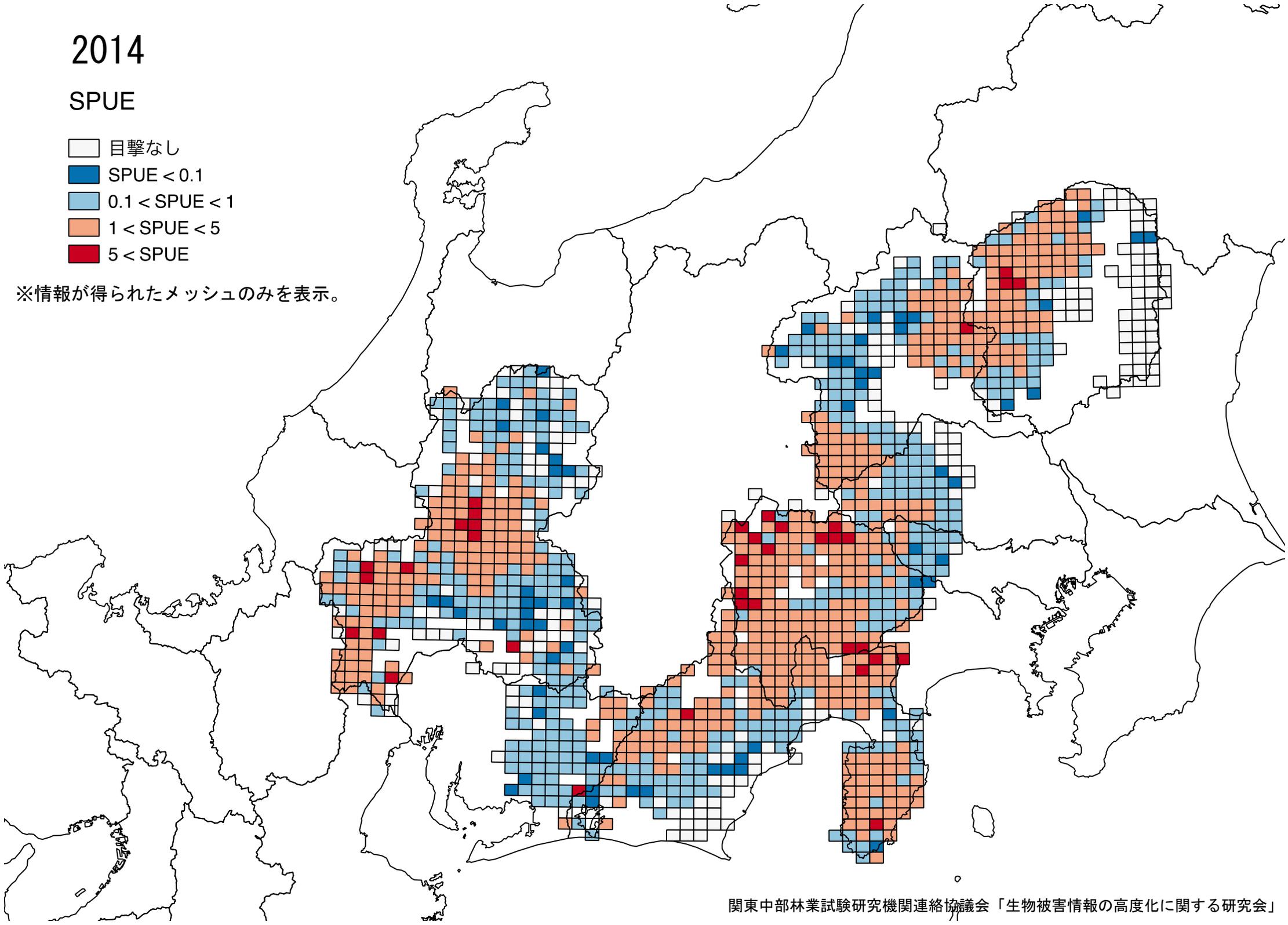


2014

SPUE

- 目撃なし
- SPUE < 0.1
- 0.1 < SPUE < 1
- 1 < SPUE < 5
- 5 < SPUE

※情報が得られたメッシュのみを表示。



2015

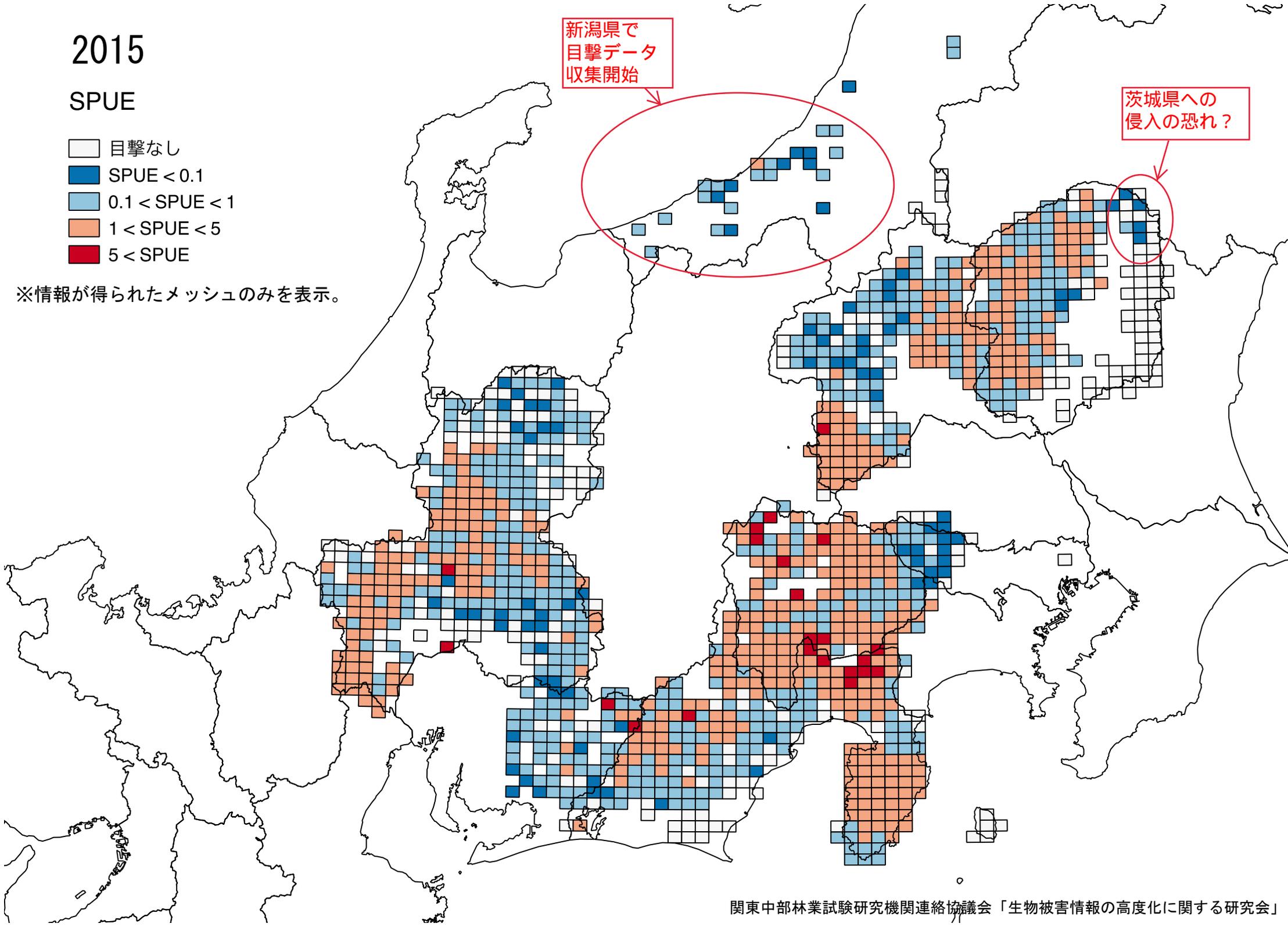
SPUE

- 目撃なし
- SPUE < 0.1
- 0.1 < SPUE < 1
- 1 < SPUE < 5
- 5 < SPUE

※情報が得られたメッシュのみを表示。

新潟県で
目撃データ
収集開始

茨城県への
侵入の恐れ？



調査から分かったこと

SPUEを広域で図化したことにより、複数の都県にわたるニホンジカの分布の広がりや相対的な密度差を示すことができた。特に、岐阜県中央部、富士山地域、八ヶ岳南部地域、日光地域で目撃効率が高く、ニホンジカ密度が高いことが明らかになった。今後は、SPUEの収集地域を広げるとともに、他のニホンジカ密度指標などについても収集し、広域比較する必要がある。
(森林総合研究所 飯島勇人)

この資料は、 関東中部林業試験研究機関連絡協議会 「生物被害情報の高度化に関する研究会」 が作成しました。

(参画機関は以下のとおり)

茨城県林業技術センター

栃木県林業センター

群馬県林業試験場

埼玉県寄居林業事務所

千葉県農林総合研究センター

森林研究所

東京都農林総合研究センター

神奈川県自然環境保全センター

研究企画部

新潟県森林研究所

富山県農林水産総合技術センター

森林研究所

山梨県森林総合研究所

長野県林業総合センター

岐阜県森林研究所

静岡県農林技術研究所

森林・林業研究センター

愛知県森林・林業研究センター

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所

お問い合わせ先

研究会幹事 岐阜県森林研究所 (0575-33-2585)

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター (053-583-3121)

または上記各都県の研究機関か森林総合研究所森林野生動物研究領域